

## 会 議 録

名 称	令和3年度第2回目黒区男女平等・共同参画審議会
日 時	令和3年8月26日(木) 午後6時30分～午後8時15分
会 場	オンライン開催(目黒区総合庁舎1階 E会議室)
出席者	(委員) 岩田、神尾、小出、小林、田中、薬師、片渕、久保、郡、佐藤、田島、渡辺 (区側) 総務部長、人権政策課長、事務局
傍聴者	なし
配布資料	・「『目黒区男女平等・共同参画推進計画』の進捗状況の評価について」答申案 ・令和2年度 男女平等・共同参画に関する事業実績報告 ・令和3年度 男女平等・共同参画に関する区民意識調査報告
会議次第	1 開会 2 「『目黒区男女平等・共同参画推進計画』の進捗状況の評価について」の答申案について 3 その他 4 閉会
会議の結果及び主要な発言	1 開会 ・定足数、傍聴者の確認 ・資料確認 2 「『目黒区男女平等・共同参画推進計画』の進捗状況の評価について」の答申案について (1) 答申案の説明 事業評価小委員会の担当委員が答申案の概要について説明した。 (2) 答申案の修正等についての意見交換 (委員) 区民意識調査結果のうち、地域活動において男女平等であると思う人の割合が低下している点や、住区や町会の役員の女性比率が低い点が気になったため、提言について、具体的に関係団体に働きかけるような内容もあった方がよいのではないか。 (委員) 中項目1-1にある審議会独自の目標値が20%と記載されているが、「20%以上」の誤りではないか。 附属機関等の女性委員割合について、女性委員がいない附属機関等が二つあるが、それぞれの委員数は何人程度なのか。 (委員) 事業実績報告の最後に一覧表があり、4人と7人である。 (委員) 女性委員がいない二つの附属機関等は委員総数が比較的少なく、一時的に女性委員がいない状況が生じることは不可避であるとも考えられる。中項目の評価を一つ上げてよいかどうかを検討する際にその点も踏まえるべきと考えたが、そのような状況であれば現在の案のとおりでよい。

- (委員) コロナの影響で男性が家庭にいる時間が圧倒的に増えたはずであり、その点を踏まえて単純に前回との比較で評価に反映してよいのかという問題がある。この点はワーク・ライフ・バランスのみではなく、全体に関わることではあるが。共通事項として最初に注記を付けてもよい。
- (委員) 具体的には特にどのような部分が当てはまるだろうか。
- (委員) 特に当てはまるのは、家事、育児等の分担で主に妻が行っているという人の割合について、従来は夫が働きに出ていることが多かった状況が反映された結果だったが、今回は夫が家にいる状況が増えている中で調査が行われており、一定割合で家庭内に夫がいる上での調査結果である。そのように前提が従来の意識調査とは少し異なる点を評価の共通事項として最初に簡単に記載してもよいのかもしれない。
- (委員) 評価をする上での今後の課題として記載すればよいだろうか。
- (委員) それでもよいし、個別に影響が考えられる部分に文章を追記してもよい。
- (委員) 意識調査回答者のうち、夫が家庭内にいる状況にあった方がどの程度いたのかがわからないため、意識調査を実施する際にその点も尋ねていればそれについてのデータも取得できたが、現時点からは個別に評価に反映するのは困難である。全体を通じた内容として追記するのはよい。
- (委員) 家庭内における家事の分担を主に妻が行っている割合は前回調査よりも割合が低下しているが、コロナの影響で自宅にいる男性が増えたという前提で考えると、家事をする男性が増えたと見るのか、これだけしか増えていないと見るのかについては、さらに詳しく調べないと言えない。今回の調査結果からは、現在の案のような内容でよいのではないか。
- (委員) ワクチン接種の関係で区のLINEアカウントに登録している人が増えていることを生かして、緊急アンケートのような形で、コロナ禍による生活様式の変化についての意識調査のようなものがあると、新たにわかることがあるのではないか。これは目黒区全体に関わることもかもしれないが、LINE登録者数が増えたことはぜひ活用していただきたい。
- (区側) 区の世論調査を昨年度に実施しており、暮らし向きの変化やテレワークの状況などについても調査している。コロナの影響による変化がある程度はわかる内容になっているため、もし、今のご意見を今回の評価に反映させるのであれば、二つの調査結果を併せて活用することも可能である。区の世論調査の結果は、令和3年3月にまとめられたものを公表している。
- (委員) LGBTに対する取組について、区は令和2年に対応指針を策定しており、それに基づいて教職員向けに対応マニュアルを作成し、教職員に配布している点は評価できる。
- 気付いた点として、DVについての記載に同性間のDVについての記載がない点がある。同性間のDVは可視化しにくく、相談がしにくく、大変な状況になることが多いため、その点についての対応が気になっ

た。また、セクシュアル・ハラスメントの防止についても、現在の国のセクハラ指針にはLGBTに対する性的な言動もセクハラに該当することが明記されているが、現在の答申では、セクシュアル・ハラスメント防止の対応の中にLGBTが含まれているのかがややわかりにくい。普及啓発は重要だが、暴力やハラスメントは普及啓発のみではないため、対応についてもきちんとLGBTも対象になることを位置付けて答申に載せると更によい。なお、LGBTは非正規雇用の割合が高く、困窮や失業割合が一気に上がっている。失業者支援や就労支援について、担当課を超えて連携しながら支援をしていく必要性が高まっている。

(委員) 同性間のDVやセクシュアル・ハラスメントについては、現在の分析の着眼点には盛り込まれていなかったことから、現在のような答申内容になっている。現在の分析の着眼点は、平成28年度に決めたものであり、条例改正前である。今年度は計画改定があるため、ご指摘の点は、次期計画期間における事業評価を行う際には、着眼点として盛り込んだ方がよい。

(区側) DVに同性間のものが含まれることは、区が職員や対外的に説明する際には当然含めて説明している。ハラスメントへの対応についても令和2年6月に従来のセクシュアル・ハラスメントの指針にパワーハラスメント等の内容を盛り込んで統一的なハラスメント指針を策定した。その指針に基づいて区職員に対して研修等を実施している。指針の中でも性的指向や性自認に基づくセクシュアル・ハラスメント等があってはならない旨が記載されており、人権政策課長が講師を務める研修においても、説明を行っているところである。実際の相談窓口でも対象に含めて対応している。

(委員) 大項目3への記載でもよいが、「評価をする上での今後の課題」として、次期計画ではその点も反映すべきという意見が出た旨を記載するのもよい。

(委員) 現在の着眼点には含まれていないのは事実なので、着眼点に限界があるという点を今後の課題として記載したい。

(委員) 現在の着眼点にはなくても、分析欄に記載することができればよいと思う。中項目3-2の分析①に同性パートナーによるDVについても啓発がされている点を記載することや、中項目3-3分析①に記載されたハラスメント防止指針のところに性的指向及び性自認に関するハラスメントも含まれていることを追記するとよい。

(委員) 答申に記載してほしいということではないが、区のLINEアカウントについて、今回のワクチン接種で登録者数が増えたことは良い機会であり、活用すべきなので、区全体の情報発信などにぜひ生かしていただきたい。

(委員) いくつかの事業がオンラインで行われているが、今回の内容では、中学生を対象としたデートDVの動画視聴が視聴者数も多かったことから

とても有意義であった。このような取組は今後もぜひ続けていただきたい。

(委員) コロナ禍で事業者も苦慮している。現在は、事業者に対する研修なども多くがインターネットセミナーのような形式で実施されている。区の広報についてもインターネットセミナーを活用するとよい。同セミナーは特定の日時に開催するものではなく、期間を設定することができるので、視聴者の都合に合わせて視聴することができる点がメリットである。参加者を増やすためには、活用していただきたい。

(委員) 評価の着眼点が実態と合わなくなっていることを実感した。企業の間では、コロナが終息したとしても、前の生活に戻るのではなく、新しい社会が来るように言われている。今後の変化を考えると5年という計画期間は少し長いようにも思われる。必要が生じた場合に見直しができる仕組みや先を見据えた計画にすることの必要性を感じた。

(委員) DVの評価が一つ下がったということで、区には更に尽力していただきたい。待機児童ゼロは大変評価できる。育児・介護はいまだに女性が担っていることが多いという状況であり、男性の参画を推進していただきたい。

### (3) まとめ

今回出された意見を踏まえて、小委員会委員が答申案を修正し、次回の審議会で答申内容を決定する。

## 3 その他

### (1) 次回の審議会の予定

#### 第3回審議会

日時：令和3年9月15日（水）18時30分～

新型コロナウイルス感染症の影響により、開催形式はオンラインや書面開催を含めて後日決定する。

### (2) その他

(区側) 新たな目黒区民センターの基本構想（素案）について、現在、パブリックコメントを実施している。素案に対する意見がある場合は、今月末までに担当課である資産経営課に提出いただきたい。事業敷地範囲や整備手法、どのような機能を整備するかの視点について検討を進めており、中目黒スクエアにある男女平等・共同参画センター、青少年プラザも集約する方向で検討がされている。来年度、新たな区民センターに関する基本計画を策定していく際にもご意見を伺う機会が設けられる見込みである。

## 4 閉会

以 上